

焼鳥 SKY フード R1

SKYR1-D 型



目 次

安全上のご注意	2 ページ
製品の特長	4 ページ
各部の構造と名称	5 ページ
ご使用前の準備と確認	6 ページ
温度警報機の使い方	7 ページ
日常の点検とお手入れ	8 ページ
簡単な故障の見分け方と処置方法	10 ページ
仕様	11 ページ
保証書・保証規定	12 ページ

ご愛用の皆様へ

このたびは焼鳥 SKY フード R1 をご購入いただきましてありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、大切に保管してください。

安全上のご注意 必ずお守りください

製品を正しくお使いいただくため、人への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの取扱説明書および製品への表示では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



危険

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定されることを表しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。

絵表示の意味

絵表示について次のような意味があります。



一般的な注意



火気禁止



一般的な禁止



必ず行う



感電注意



高温注意

SKY フード本体

製品名/型番	焼鳥 SKY フード R1 SKYR1-D
SKY フードサイズ	W 1 2 0 0 mm x D 4 2 0 mm x H 3 0 0 mm
質量	2 3 k g
配管径	Φ200mm (FD 径 Φ 2 0 0 mm)
排気量	800m ³ /hr + 30%
本体静圧	550pa
吸引口面速	7m/s ~ 8 m/s
接続口径	Φ200mm

油扇クラッシャー・温度センサー部

電源/消費電力	AC 100V 50Hz/60Hz 70W
サイズ	クラッシャーボックス W 4 8 0 mm x D 4 8 0 mm x H 4 6 0 mm (突起部除く) 温度センサーボックス W 1 1 0 mm x D 7 0 mm x H 1 1 0 mm (突起部除く)
質量	クラッシャーボックス 約 19 k g 温度センサーボックス 約 0.5 k g
使用環境温度範囲	0°C ~ 40°C
警報温度設定初期値	70°C
警報温度設定	60°C ~ 100°C 1°C刻み
接続口径	Φ200mm

簡単な故障の見分け方と処置方法

不具合が改善されない時やご不明な点等ございましたら、お買い上げの販売店または当社にご連絡をおねがいします。
不完全な処置や放置は故障や事故の原因になります。

症状	原因	対処方法
煙を吸い込まない	・ダクトファンが回転しない	・ダクトファンの電源スイッチ、ブレーカは ON になっていることを確認してください。 ・スイッチを ON にしても回転しないときは設置業者に点検を依頼してください。
	・防火ダンパーが閉じている (温度ヒューズが切れている)	・予備のヒューズに交換してください。
煙の吸い込みが悪い	・室内の空気不足	・給気を取ってください。
	・エアコン等の風が直接当たる	・風の向きを直接当たらないように調節してください。
	・異物キャッチャー、 油扇クラッシャーが汚れている	・異物キャッチャー、油扇クラッシャーの油汚れを点検・清掃してください。
	・ファンの異常	・異常音や異常な振動などがしていたらファンの設置業者に点検を依頼してください。
	・SKY フードと焼台の間隔のずれ	・間隔を70mmに調整・確認してください。
油が漏れている	・異物キャッチャー、 油扇クラッシャーが油で汚れている	・排気ファンとクラッシャーの電源を切ってから、異物キャッチャーや油扇クラッシャーの油汚れを点検・清掃してください。
温度表示が異常	・外来ノイズによる誤動作	・電源スイッチを一旦切り、10 秒程度経過後に電源スイッチを入れてください。
	・温度センサーが汚れている	・温度センサー部を点検、清掃を実施してください。
警報が誤発報または 動作しない	・警報温度設定値の誤設定	・警報温度設定値を再確認してください。 出荷時の設定値は 70℃です。

⚠ 危険



- この製品は金属製部品によって構成されており、かなりの質量があります。
安全に配慮した設計・設置方法をとっておりますが、
清掃時やお客様のいたずらなどで部品の一部や本体が落下した場合、
けがや損傷の原因となります。
取扱いには注意してください。



- 調理以外の用途に使用しないでください。



- 油扇クラッシャーは高所にに取り付けていますので、点検や清掃時のはしごや脚立に関する
災害発生原因の特徴を踏まえた安全対策を必ず取ってください。

⚠ 警告



- 火災予防
機器の上や周囲には、可燃性の物（衣類や布製品、新聞紙、紙袋など）や引火性の物
（エアゾール缶など）は置かないでください。また、カーテンなどの可燃物の近くでは使用しな
いでください。火災の原因となります。



- 清掃や点検前に
必ず本体の電源を切るか電源コードをコンセントから抜くか、ブレーカーを切ってから作業を
開始してください。
クラッシャーボックス内部には高速回転している油扇クラッシャーの羽根がありますので、
接触や巻き込み等によるけがの原因となります。



- 清掃時
AC モーター等の電気部品がありますので、水や洗剤などをかけないでください。
故障や感電の原因となります。



- 長期間安全にご使用するために
定期的な点検と清掃作業を必ず実施してください。故障や火災の原因となります。



注意



●本製品を分解しないでください。故障や感電、けがの原因となります。



●本製品の点検や清掃を行う場合は、温度が下がってから作業を行ってください。火傷の原因となります。



●清掃前は、油汚れで滑り易くなっていますので、SKY フードフタや異物キャッチャー、吸引グリル、R1 点検フタ、R1 ケース、クラッシャー回転羽根、ネジ類の落下に注意してください。けがや損傷の原因となります。

製品の特長

本製品は、焼鳥を焼く際に発生する煙を効率的に排気するカウンター式排気ダクトです。油扇クラッシャーを組み込むことにより、排煙中に含まれるオイルミストを $0.3\mu\text{m}$ まで微粒子に分解され、その粒子径がミスト状からガス状に改質し、排気ダクトの内壁に付着することなく、ダクトの油溜まりによる火災のリスクを大幅に軽減できます。

空気中に漂う油脂の微粒子が $0.3\mu\text{m}$ 程度まで小さくなると、乳濁したエアロゾル状態となり、このサイズになると重力による自然分離（浮上分離）はほぼ期待できない。

油扇クラッシャー部の清掃

高所作業のため脚立等の特徴を踏まえた安全対策を実施してください。

週2回以上の清掃が必要です。

- ① コイン等を使用して4本のネジを外し、
点検フタを取り外します

- ② ダクト内への工具等落下防止のため段ボール等を
下に敷いてください

- ③ 専用の治具を利用して羽根中心のナットを緩めます
治具黒部(ストッパー側)の T の字の上部分を羽根の中心に合わせて、
周囲のボルトの間に密着させます。
治具白部(ボックス側)を少し開いた状態で羽根に押し付けると、
固定ナットにはまります。
この状態で治具黒部と白部を握り締めることで固定ナットが緩みます。

- ④ 治具を取り外して、羽根を片手で押さえながら手で固定ナットを右に回して
羽根を軸から取り外します。この時羽根の落下に気を付けてください。

- ⑤ 取り外した羽根は洗剤で浸け置き後に洗浄してください。取り付けは十分乾燥させてから行ってください。

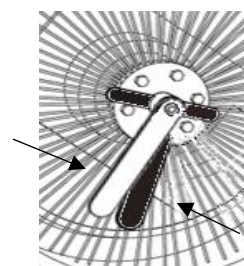
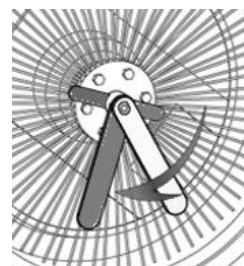
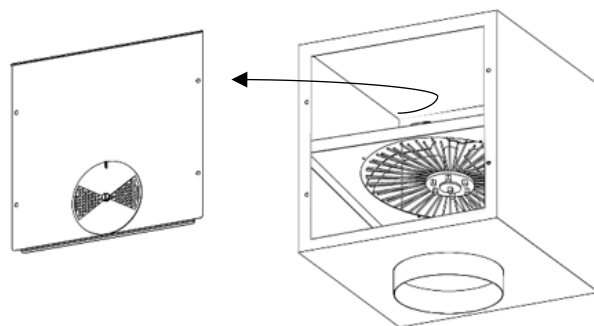
- ⑥ R1 ボックスの内部の油汚れを拭き取ってください。

- ⑦ 洗浄乾燥後の羽根を軸に取り付けます。固定ナットを左方向(反時計方向)に回して締めてください。
治具を使用して締め付けてください。
治具の黒部を白部に対して左側に開いた状態で羽根のナットに押し付けてから、
治具の黒部と白部を握り締めるとナットが締まります。

【ご注意】 強く締め付けてしまうと、取り外せなくなる場合があります。

- ⑧ 落下防止の段ボールや清掃用具等全てを取り出してから、点検フタを4本のネジで固定してください。

- ⑨ 電源スイッチを入れて、油扇クラッシャーが正常(異音や振動などがなく)に回転していることを必ず
確認してください。



ダクトクリーニング及びファンモーターの清掃について

使用頻度に応じて最低年 1 回以上のダクト内部およびファンモーターの掃除を実施してください。

日常の点検とお手入れ

点検・お手入れの際のご注意

○必ず排気ファンを止めてから作業を行ってください。

雑巾や紙などがダクト内に吸込まれると、ダクト内の点検清掃作業の実施が必要になります。

また、排煙能力の低下や騒音、機器の故障の原因になります。

○お手入れの際には怪我防止および手の保護のため、必ず手袋をつけてから作業を行うようにしてください。

○お客様に不快感を与えないよう、汚れは速やかにお手入れしましょう。

点検作業 *5 ページ「各部の構造と名称」を参照

- ☐ 各部品が正しくセットされていることを確認してください。
- ☐ SKY フードと焼台の間隔が 70mm になっていることを確認してください。
- ☐ 吸引グリル、異物キャッチャーが汚れていないことを確認してください。
- ☐ 温度センサーの温度表示が正常であることを確認してください。
- ☐ 油扇クラッシャーに異音や振動音、油漏れがないことを確認してください。

SKY フード部の清掃

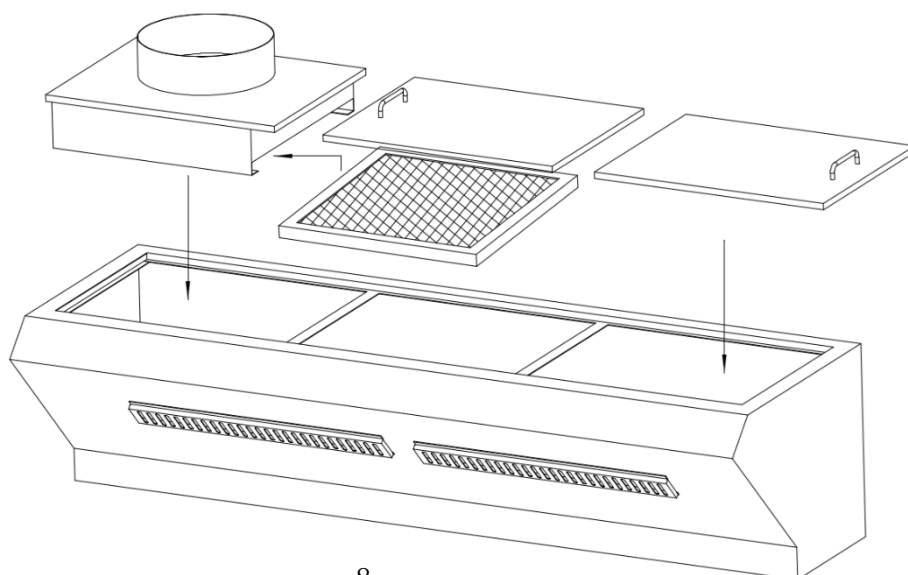
清掃は**毎日**実施してください。

過度に油が溜まるとオーバーフローして排気ダクトを汚す原因となります。さらに火災の原因になります。

油を溜めない**毎日**掃除を実施してください。

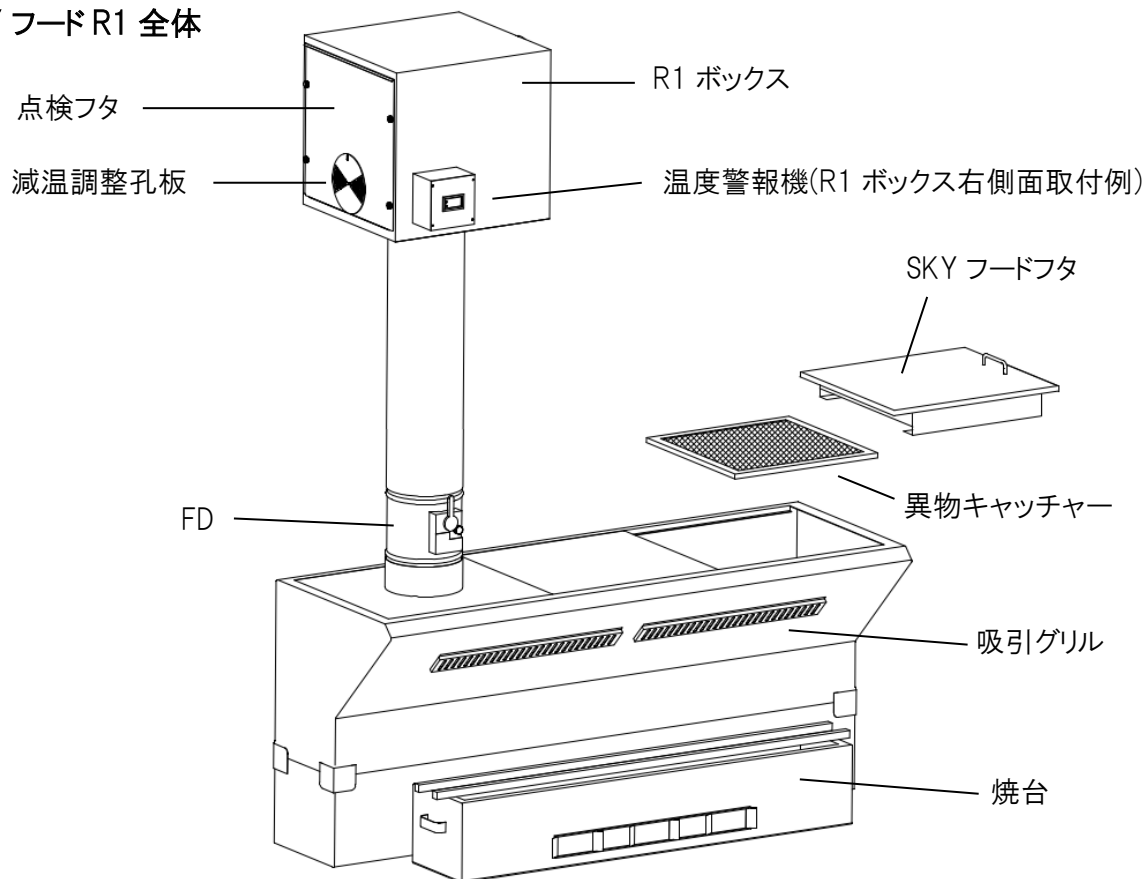
- ① フード外観の油汚れを拭き取ります。特に吸引グリル付近は油汚れが多く付着します。
- ② 上フタを取り外し、異物キャッチャーを取り出し中性洗剤で**毎日**洗浄します。
- ③ フード内部に付着した油汚れを拭き取ります。
特に吸引グリルの内側付近に油が多く付着しますのできれいに取り除いてください。

- ④ 洗浄・乾燥した異物キャッチャーと上フタを取り付けます。
- ⑤ 焼台との間隔を70mmに合わせてください。



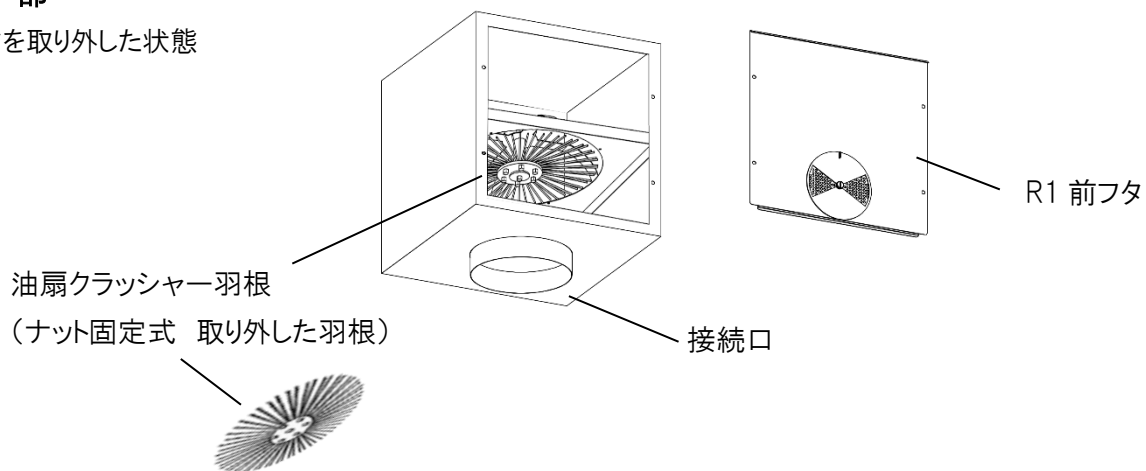
各部の構造と名称

■SKY フードR1 全体

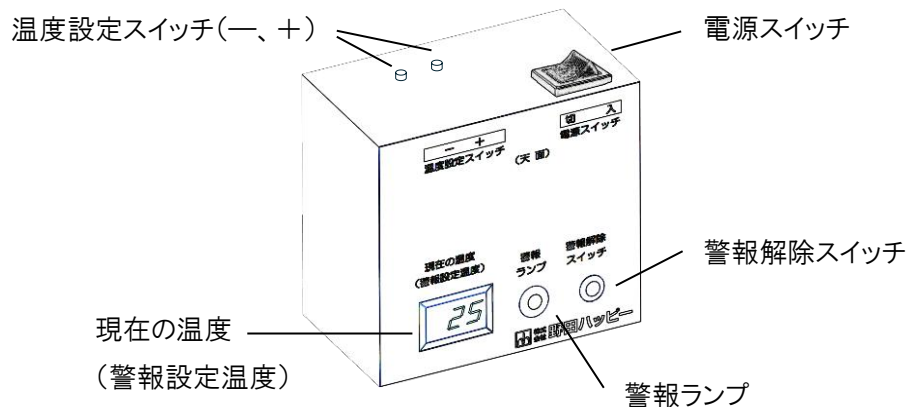


■R1 クラッシャー部

*R1 前フタを取り外した状態



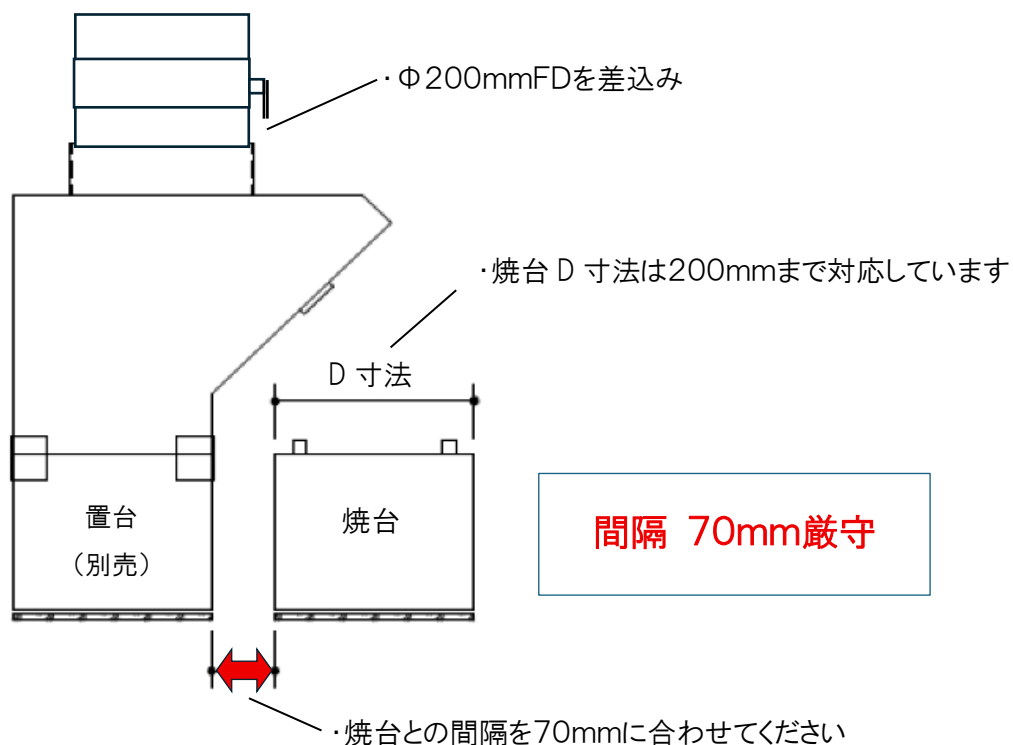
■温度センサー部



ご使用前の準備と確認

○各部の取り付けやネジ止めに異常が無いことを確認してください。

○異物キャッチャーが正しく装着されていること、焼台が適切な位置に設置されていることを確認してください。

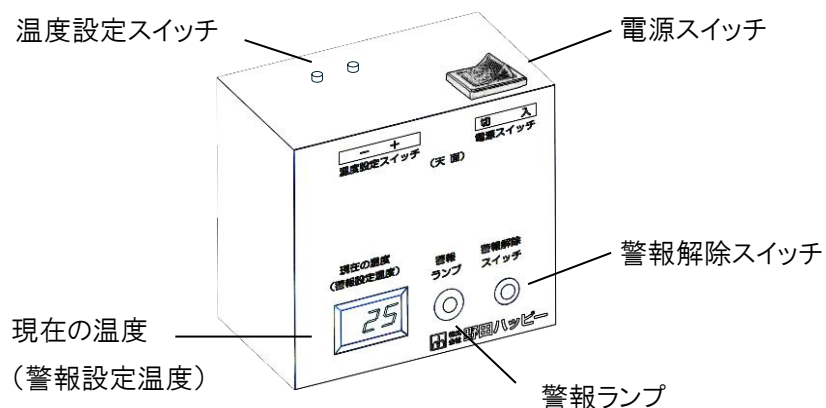


○冷暖房装置の吹き出し口付近や、強い風が吹き込む場所、またはその付近に設置されていると吸い込みが阻害される原因となります。風向変更や風向板などでの対応を行ってください。

○排気ファンの電源スイッチを入れ、排煙吸込口より適正の吸引排気がされているか確認してください。吸引量が足りないと煙が舞い上がる原因となります。また、吸引口の温度が上昇する原因となります。

○温度警報機は R1 クラッシャーケース内の排気温度を監視しています。計測温度が正しく表示されていることを確認してください。

温度警報機の使い方



- 電源スイッチを入りにすると、油扇クラッシャーが回転して計測温度が表示されます。
- 警報温度は出荷時 70℃に設定しています。
- 警報温度を変更する場合は上面の警報温度設定スイッチ(+と-)で行います。
(警報温度は 60℃から 100℃まで 1℃単位で設定ができます)
- 設定した警報温度を超えた場合、警報音と警報ランプで異常をお知らせします。
警報が発報されたら速やかに消火して、排気温度上昇の原因の調査・確認を行ってください。
警報温度を超えての稼働は、モーターの故障やダクト火災の原因となります。
- 警報音を停止する場合は、警報解除スイッチを押してください。